

元気にがんばる 文化系サークル

平成25年に開催される「国民文化祭・やまなし2013」。全国から参加者を迎える本県では、小学生から一般まで、多彩な文化系サークルが活動しています。

「全国トップを目指して」「楽しむため」など目的はさまざまですが、このコーナーでは県内で活動する文化系サークルを紹介します。

今回は、全国トップレベルの成績をおさめている敷島南小学校と敷島中学校の吹奏楽部を紹介します。



敷島中学校 吹奏楽部 (甲斐市)

「心はひとつ」 目指せ！ 全日本連続出場

課題を見つけ 練習に取り組む

全国に数千ある中学校の中から、29校だけが出場できる全日本吹奏楽コンクール。その狭き門に、過去5年間で4回出場したのが敷島中学校吹奏楽部です。

その強さの秘訣は、どこにあるのでしょうか？

昨年度赴任して顧問になった田中誠先生は、「他の学校と比べて、やはり生徒たちの集中力が違います。漫然と練習するのではなく、自分で課題を見つけて、その課題



敷島南小学校 吹奏楽部 (甲斐市)

みんなで一つのことをやり遂げる喜びを体験

あいさつができる子は 大きな音が出せる

「おはようございます」「ありがとうございます」といえました。――楽器の音とともに、子どもたちの元気な声が音楽室に響きます。

東日本学校吹奏楽大会に西関東代表として、一昨年、昨年と連続出場している敷島南小学校吹奏楽部。今年も3年連続出場を目指して、4年生から6年生まで50人の児童



「こうすれば、うまく演奏できるよ！」
「ありがとう」

たちが、毎朝練習をしています。

「あいさつがしっかりできると、楽器も大きな音が出せるようになるんです。そう話すのは、顧問の丸茂和也先生。「子どもたちは、音楽の楽しさ、そして『みんなと一緒にやれば、これだけのことができるんだ』という喜びを感じてもらいたい」。そんな思いで、日々の練習に臨んでいるそうです。



新入部員はまず遠くに届くように、大きな音を出す練習をします。音色を気にせずは何回も出すことによって、少しずつよい音になっていき、1カ月もすると、簡単な曲なら吹けるようになります。

楽器のパートごとの練習では、上級生が下級生の面倒を見ます。それによって下級生が上達するのはもちろんのこと、上級生も、悩みながら教えることで成長していきます。

「子どもたちには、吹奏楽を通して自分に自信をもってもらいたい。コンクールの前や夏場の練習は辛いと思いますが、それを仲間と一緒に頑張って乗り越えた経験は、きっと将来に向けて自信と励みになると思います」

下級生に教えることで 上級生も成長する



「下級生には優しく教えて、できたときはものすごく褒めてあげると上達が早い」と、部長の遠藤麻帆さん(写真:右)。「下級生が褒められると、自分も褒められているようでうれしい」



をクリアしようという意図を持って一人ひとりが練習している」と言います。一つの課題をクリアしたら、次に見えてきた課題に取り組む。その地道な練習の積み重ねが、ハイレベルな演奏を生み出しています。

つらい時の支えは 仲間の存在

田中先生が目指すのは、「顧問が

ら指示されるのではなく、生徒たちが自ら考え、自分たちでつくり上げていく演奏」。実際、練習は部長や副部長、パトリオターを中心に進められ、新入部員の指導も上級生が担当しています。

年間を通して、ほぼ毎月コンクールやコンサートなどがあるため、休日は1日練習に費やされます。今年も、10月の全日本コンクール出場を目指して、ハードな練習の日々が続きます。つらい時、支えになるのは一緒に頑張っている仲間の存在です。「心はひとつ」という部のスローガンの下、54人の部員たちが一丸となって、目の前の課題をクリアしようと、今日も練習に励んでいます。



インタビュー
部長
小松理紗子さん

みんなでハーモニーを つくり上げる楽しさ

吹奏楽の楽しさは、みんながそれぞれ違う楽器を演奏し、ハーモニーをつくり上げるところです。満足のいく演奏をするには、日々の練習が何より大事です。思い通りにいかないこともあります。コンクールでよい演奏ができたときは、本当に充実感があります。

1年生の時に、茨城県で開催された国民文化祭に参加しました。大きな会場で、たくさんのお客さんを前に楽しみながら演奏することができ、コンクールとは違う充実感を味わうことができました。